

第 4 回検証委員会の指摘事項への対応状況

議事（2）兄島ペイトステーション（以下、「BS」とする。）稼働再開後の効果と環境影響の評価について

発言・提案者	指摘事項	対応状況
ネズミ対策検討会委員	兄島のBSによる緊急対策は、陸産貝類の保全に一定の効果があつたが、エリアを設定して特定の種だけを守る対策では進化的価値は守りきれない。対策のために多くの作業員が必要で、天候に左右されやすく、踏圧の面からも長期間続けることは難しい状況。	兄島陸産貝類の重要保全エリアにおけるBS対策を継続（参考資料 2） 兄島の陸産貝類保全のためには、「空中散布を中心とした対応が必要である」と考えているが、空中散布ありきではなく、地上散布も含めた手法の組合せが必要であること、環境影響への配慮が必要であること、ネズミ再発見時の対応等について、報告書に明記した。（資料 2 5.1(3)(4)(5)）
地域連絡会議参画団体及び大河内委員	BSだけでは対策が十分でないということだが、空中散布だけで片付くと思えない。現在のやり方では2、3年後には同じ状況になるため、手法の組合せを考えなければならない。また、長期的な対策コストを考える必要がある。	
ネズミ対策検討会委員	今後、空中散布を実施する場合には、スローパックは、風に飛ばされないような改善が必要である。殺鼠剤の変更には法律上の制限があるのは承知しているが、包装形態を変えることは可能ではないか。	農薬殺鼠剤の場合、剤型の変更には新規登録と同じ手続きが必要だが、パックの形状変更は技術的には可能であるため、コストと効果のバランスを考えて検討する。2/16
地域連絡会議参画団体	空散をする場合、殺鼠剤が地上に落ちてネズミに喫食されやすい工夫が必要である。	に技術改良の勉強会を行っており、技術的課題については、製薬会社等に確認中である。（参考資料 2）

議事（3）環境影響評価のための実証試験の進捗状況について

	指摘事項	対応状況
渡邊委員	米国 EPA のデータではダイファシノンの半減期が、好氣的半減期で 28～32 日、陸域の半減期が 102 日とあるが、室内試験のデータから、現地での詳細な環境中の残留状況が分かると思う。	今回の人工降雨装置試験の結果では、土壌への流出は検出限界以下で、残留は確認されなかった。（資料 2 4.2）
ネズミ対策検討会委員	ネズミへの体内残留のデータから、ノスリに対する二次毒性影響を定量的に示して頂きたい。また、オオコウモリなど小型哺乳類も喫食試験だけではなく、環境影響の指標を示して頂きたい。	ノスリへの影響については、詳細に報告書へ記載（資料 2 4.4(2)）
渡邊委員及びネズミ対策検討会委員	実証試験結果の検証のために、結果をまとめたものだけでなく、詳細なデータを示すこと。	各試験の試験方法や詳細なデータについて関係者に送付。最終的に報告書の別添資料として整理する。（資料 2 5.1(4)）
地域連絡会議参画団体	アカガシラカラスバトは他の餌がある中でスローパックの無毒餌をよく食べており、かなり高い喫食性であることが伺える。このことについては実験を行った上野動物園にコメントをもらってほしい。	報告書別添資料において、上野動物園の試験結果を添付する予定。なお、兄島の BS 対策では自然環境下でも喫食性が高いことが確認されており、環境影響へ十分な配慮が必要な種であると整理した。（資料 2 5.1(4)）
大河内委員	今回の調査結果では、小笠原産のネズミに抵抗性遺伝子は検出されなかったが、都内のネズミが侵入する可能性が考えられるので、リスクとして考えるべき。	報告書の環境リスク評価において記載する。（資料 2 4.4(2)）

議事（４）検証結果のとりまとめについて

	指摘事項・意見	対応状況
白石委員	ネズミの根絶が目的ではなく、陸産貝類の保全が目的であることを記載する必要がある。	目標設定の留意事項として、対策の目的を外来種ではなく、保全対象を主語にすることを整理した。
大河内委員	兄島は陸産貝類が主な保全対象であるが、他の島では保全対象は異なる。過去の事業でネズミの根絶状態が維持された間のめざましい変化があったことについて、情報収集し、鳥類、植生など、プラスの効果があることも明記すべき。	過去の事業の成果として、ネズミ対策は、陸産貝類以外に、鳥類、植生などにもプラスの効果を及ぼすことも、根拠となる情報と合わせて整理した。（資料 2 3.1）
ネズミ対策検討会委員	空中散布でネズミを根絶状態にしても、また再発見される可能性がある。その際に、再侵入か取り逃がしかがわかるようなモニタリングが必要。	再侵入は起こりうる想定して対策を進めること、再侵入防止対策を合わせて行うことを明記。また、実際に再侵入個体であったかどうかを把握するためのモニタリングが必要であることも明記した。
白石委員	効果があったかどうかを示すことができるような事後評価を行うことが重要である。	事後評価モニタリングの留意事項として整理した。
ネズミ対策検討会委員・地域連絡会議参画団体	化学防除は事前・事後のリスク管理が必要であるので、その手順をきちんと示すべき。特に海岸部の散布の配慮などをきちんと整理すべき。	事業計画の立案手順や、実施の際の環境影響への配慮項目について整理した。
地域連絡会議参画団体、織委員長	外部からのチェック、評価する者の責任を明確にして、第三者機関を取り込んでいく体制づくりが検討されるべきである。	事業実施・検討体制の留意事項として整理した。
傍聴者	住民に意見を言わせるだけでガス抜き扱いされている。意見が採用されなかった場合は、その理由を広報誌等で返すなど、コミュニケーション手法の改善が必要である。	事業の決定プロセスにおけるコミュニケーションの重要性や、地域との合意形成を図る上での留意事項について、整理した。
地域連絡会議参画団体	報告書に記載された内容は、事業実施主体に対する提言と考えると、主語に留意してまとめてもらいたい。また、検証の結果、そもそも検証してほしいことが1年かけて戻ってきただけであることは、今後の事業を進めるに当たり、重く受け止めなければならないし、検証の間に兄島の陸産貝類がおかれた現状をしっかりと考えてもらいたい。	検証結果は、環境省で受け止めるだけでなく、関係行政機関含めた全ての事業者を対象に、報告する。また、これまでの議論を踏まえて対策内容に改良を加えて、環境影響配慮や事業計画立案における合意形成の部分がまとまってきたのが検証の成果であると考えている。

議事（５）その他

	指摘事項	対応状況
地域連絡会議参画団体 大河内委員	駆除技術の開発について書き込む必要がある。	技術開発は情報を整理中であり、兄島陸産貝類保全プロジェクト会議や、ネズミ駆除の専門業者や製薬会社との勉強会などを通じ、引き続き検討する。（参考資料３）
	ネズミの不妊薬を開発することを提案する。沖縄で、マンガースの駆除のために環境省が不妊薬を開発中であり、うまくいけば哺乳類に対して、他の地域でも使える可能性がある。	
	小笠原の特性に合わせた手法の工夫、どこでも使える総合的研究の面について整理すると良い。	